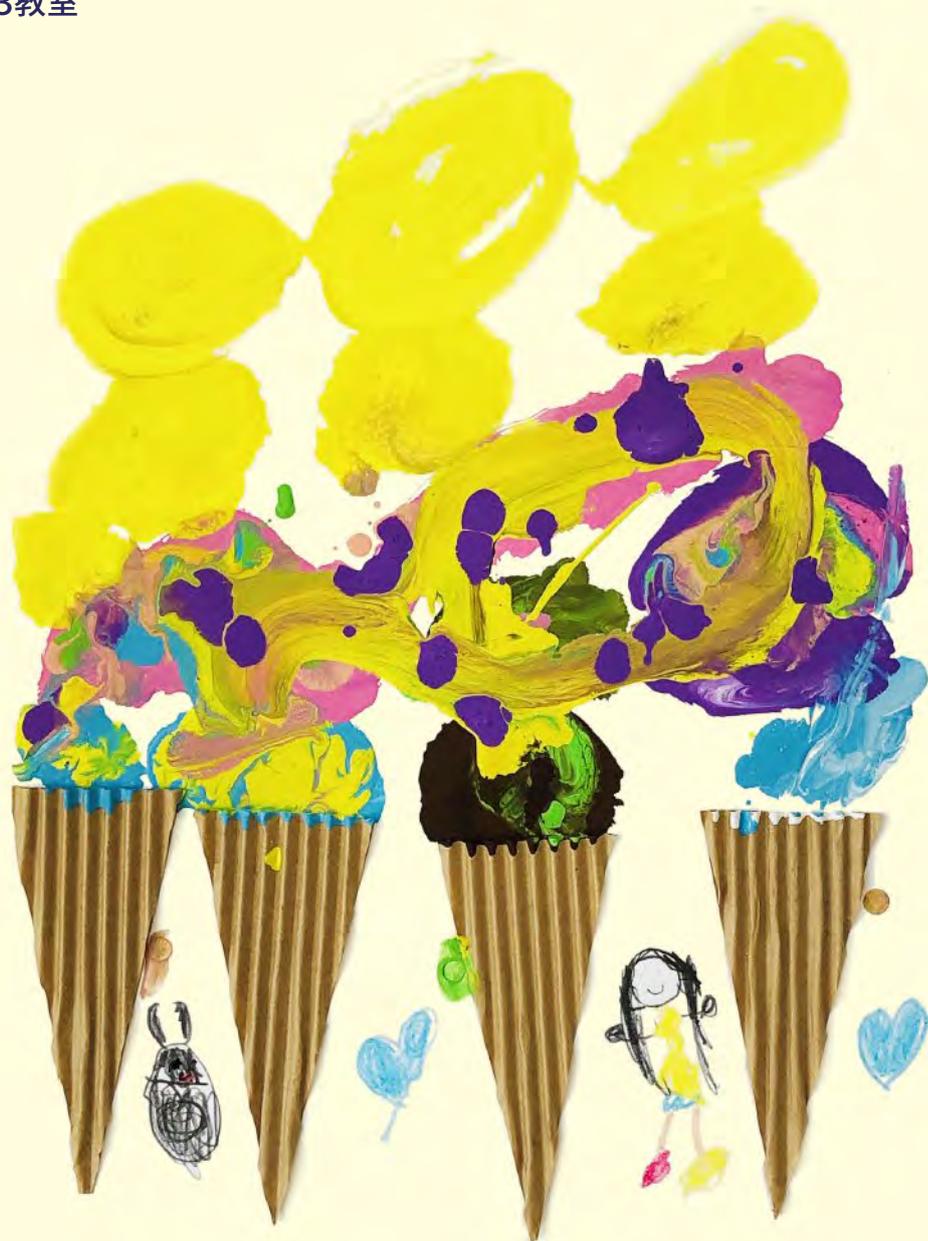


# 第22回 明星大学 教育・保育セミナー報告書

## 明星の保育者養成について考える ～ 在学生と卒業生の交流から～

日時：2024年11月9日[土] 14:40～16:10

会場：明星大学 28号館 203教室



# 明星の保育者養成について考える ～在學生と卒業生の交流から～

日時：2024年11月9日(土) 14:40～16:10

内容：卒業生代表3名によるパネルディスカッション、在學生と卒業生との交流会、卒業生の交流会

コーディネーター：藤枝充子・内田裕子・藤田久美子・永井友美・中川祐里

明星大学教育学部開設15周年を目前にした第22回は、子ども臨床コースの保育者養成について、在學生と卒業生との交流を通して振り返る目的でセミナーを企画しました。

当日は、パネルディスカッション登壇者3名(それぞれ公立保育園、私立幼稚園、公立児童福祉施設勤務)を含め卒業生22名、在學生45名(1・3・4年生各1名、2年生42名)が参加しました。プログラム前半のパネルディスカッションは28号館203教室で、後半の在學生と卒業生の交流会は202教室で行いました。

前半のパネルディスカッションのテーマは「卒業生の今一仕事のおもしろさ・やりがい」。最初の登壇者から「緊張をほぐそう！」という提案があり、会場に集まった全員でピーマンマン体操を踊りました。全員で身体を動かしたことで一体感が生まれ、和やかな雰囲気の中、卒業生が順番に、子どもとの関わりを紹介しながら子どもと関わる仕事のやりがい、加えて学生時代の過ごし方等について話されました。後半の交流会では、在學生と卒業生混合の10グループにわかれ、3名の卒業生の話を土台にしつつ、実習のこと(在學生が不安に感じていること、受け入れ側の思い)、実際の保育現場の様子、仕事の楽しさや苦労、ストレス解消法、学生時代の過ごし方等々、先輩だからこそ聞ける内容を話題にしながらグループごとに交流を深めました。

## 卒業生代表によるパネルディスカッション：パネリストの方々



北川 旺さん  
公立保育園勤務 6年目



瀬野 海月さん  
私立幼稚園勤務 6年目



早川 泉さん  
公立児童福祉施設勤務 6年目

## 第22回 明星大学 教育・保育セミナー

明星の保育者養成について考える～在學生と卒業生の交流から～

### プログラム

14:40～15:20	卒業生代表によるパネルディスカッション 「卒業生の今一仕事のおもしろさ・やりがい」
15:20～16:10	在學生と卒業生との交流会 (在學生は終了後、アンケートを記入し解散)
16:20～17:30	卒業生の交流会

セミナー終了後のアンケート(回答者数:在學生45名、卒業生20名)の主な回答結果を<在學生>と<卒業生>にわけて紹介します。

#### <在學生>

「参加しての感想をお聞かせください」の質問に「大変よかった」約82%(37名)、「よかった」約18%(8名)と回答、「本日のセミナー内容は、今後のキャリアを考えていくうえで、参考になりましたか」には「大変思う」80%(36名)、「思う」20%(9名)と回答、「来年も参加したいですか」には「はい」約22%(10名)、「時間があれば参加したい」約76%(34名)、「いいえ」約2%(1名)という回答でした。これらの結果から、今回のセミナーが、在學生(主に2年生)の不安感や疑問に応え、キャリアイメージを描く機会を提供できたと考えています。

次に、在學生の感想を自由記述からピックアップしました。

質問:先輩方の話を伺い、教育・保育の仕事について感じたことはどのようなことですか。

- ・先生っていう仕事は、小学校でも幼稚園、保育園でもすごくやりがいがある仕事だと感じた。
- ・実際に働いている人の話だったため、ためになった。思ってい

たよりも大変で難しそうだと思った。

・大変なことは沢山あるけど、やりがいの方が大きいということ。

・子どもと関わる上で、周りの人の意見で自分の考えを柔軟に変えていける保育士になりたいと感じた。

・みな笑顔で話をするので、大変なことがあっても、やりがいがあるのをきくと上回る仕事なのだと感じた。

・どこで働いていても子どもや関わる人たちのことを嬉しそうに話してくれるため、少し働くことが楽しみになりました。

・子どもたちの成長を見届けるだけでなく、自分自身の成長を感じながら働いてとても魅力的な職業だと改めて感じました。

・やっぱり、自分は子どもと関わる仕事に憧れがあるなと思いました。子どもは大人が思いつかないようなことを考えたり、行動します。それは成長するにつれ日々更新されます。自分もそこに立ち会いたい！と思いました。

・大変なことが多いのはもちろんだけれど、それよりも子どもから学ぶことが多かったり単純に子どもがかわいかったりして、やりがいを感じられているのが素敵だと思いました。私はこれからの実習に不安を抱えていたけれど、先輩方の話を聞いて楽しみな気持ちも抱くことができました。

・子どもの日々の成長から長い目で見た成長まで感じることができたり、またそこに自分が関わることのできる点で、非常にやりがいがありそうだと改めて感じた。

・周りの保育士や保護者の方との連携を大切にしながら、子どもの成長をサポートする素敵な仕事だと感じた。

在學生は、保育についていきいきと語る先輩方の姿や話から、子どもと関わる仕事の魅力ややりがいを強く感じたようです。そして、実習に対する不安解消までは難しいですが、不安ばかりではなく、実習の楽しさにも目が向くようになっていきます。保育現場で活躍されている先輩から直接お話をうかがう機会を設けることの意義を改めて理解しました。



#### <卒業生>

アンケートに回答くださった卒業生20名の勤務先は、公立保育園、私立保育園、私立幼稚園、学童保育所、児童福祉施設、一般企業と様々です。

「参加しての感想をお聞かせください」の質問に「大変よかった」80%(16名)、「よかった」20%(4名)と回答、「来年も参加したいですか」には「はい」45%(9名)、「時間があれば参加したい」55%(11名)、「今後、在學生に保育現場のこと、仕事のことを話す機会があった時には、ご協力いただけますか」には「はい」60%(12名)、「時間が合えば協力したい」40%(8名)という回答でした。

次に、卒業生の感想を自由記述からピックアップしました。

質問: 今回のセミナーを通して、学んだことや仕事に活かせるようなことがあれば教えてください。

・在學生との交流はもちろんですが、卒業生との交流のなかで、保育の違いや、環境の違いを知ることができた。

・改めて自分の仕事について立ち止まって考えることができました。

・転職活動についてのお話を聞くことができ、視野が広がりました。

・自身の仕事のやりがいと通ずる部分があり、改めて仕事に対しての思いが強まった。

・他学年の先輩ともお話しできるため、今の保育について聞ける機会にもなると感じた。

・みんなの仕事っぷりに感動した。自分も頑張ろう。

・学生さんの話を聞いて、改めて保育を目指したきっかけや保育者として仕事することに期待を抱いていたことなど、自分の学生時代のことを思い出しました。

・仕事をしていると保育園や施設の情報がなかなか入らないので、今回いろいろな場所で働く先生方とお話できて楽しかったです。

・普段情報共有する場があまりなかったのでよかった。

・学生と進路の話をしたことに付随して、先生方のお話を聞く

ことができた際に、今現場で感じている疑問点をより深く研究する面白さを感じました。私自身キャリアアップを考えていたのですが、大学院への進学も視野に入れたいと思います。

・自分の学生時代を振り返りながら大事にしてきた経験、保育観が明確になりました。

・卒業生の先輩方の話を聞いて、自分が勤務しているところ以外の業務内容を学ぶことができ、再度自分の特性とどの職種が合っているのか再確認出来た。

・実習生は緊張して、何が分からないのか分からないということを出した。今度は受け入れる側になるため、たくさん学べるように実習生に寄り添っていきたく思った。

・学生と交流することで初心を思い出せたり、刺激になった。また、先生たちと久しぶりにお話しできて、将来のことや現在の保育相談ができて有意義な時間になった。

・入職後数年がたち、良くも悪くも今の保育園での働きに慣れてきたことで、やりがいは？であったり将来的な経済面であったり考えることが少しずつ増えていました。改めて先輩方の仕事への取り組みややりがいなどを聞き、また頑張ろうという気持ちになりました。

質問：在學生と交流してみて、どのようなことを感じましたか。

・不安なことがまだあったり、わからないことがわからない状況が自分も同じだったなと懐かしく感じた。

・物の見方が新鮮だった。

・実習に参加したことがないまだ何がわからないかもわからない状態が、懐かしかったです。今度実習生と話す機会があったら今まで以上に丁寧にかかわっていきたくです。

・自身の学生時代を懐かしみつつ、ぜひ来ていただきたいな、と思いました。

・これから実習を控えている緊張感が伝わり、懐かしくもあり応援していきたいと感じた。

・在校生からすると、今回のセミナーへの参加は多少なりとも「言われたから来た」という意識があったように思われるが、数多くの卒業生がこれだけ集まっていることは非常に大きな意味合いがあることを感じてもらえたら、と思う。

・実習前の不安や就活の不安など、私たちが学生の時も悩んでいたなあと思い出しました。

大変なこともあるけど、ぜひ子どもと関わる仕事についてもらいたいと思いました！

・初々しいなと感じたと同時に、どんな視点を持って保育していくのかとても楽しみになりました。

・若い！いきいきしてよかった！

・実習に初めてくる学生の気持ちを思い出せました。実習生へのフォローを充実させたいなと思いました。

・素朴に感じたこと、意欲的に質問していただき前向きな気持ちになれました。学生のみなさんのために貢献できて良かったです。

・保育園実習前でみんな不安や心配を抱えていると感じた。で



もみんな思い詰める様子は見られなく、コミュニケーションもよくとってくれていたのだからこのからの実習を乗り越えられると感じた。

卒業生にとっても、在學生との交流が自分自身を見つめ直すことや実習生を受け入れる時の心構え、さらに、卒業生自身の働く意欲につながったことが示されています。また、保育の難しさや保育現場の厳しさに心身ともに疲れてしまっている卒業生にとって、明星大学に戻ってくる機会を、子ども臨床コースで準備しておくことも必要なのだと考えさせられました。そして、今回のセミナーが、在學生と卒業生、卒業生同士の縦と横の関係を築くきっかけにもなっていましたら、本セミナー企画者として喜ばしく思います。

アンケートに回答くださった皆様、ありがとうございました。

第22回教育・保育セミナーは、子ども臨床コースの保育者養成について、在學生と卒業生との交流を通して振り返ることを目的に実施しました。在學生は、子どもとの関わりや保育についていきいきと語る卒業生を見て、保育のやりがいや魅力を強く感じています。このことから、保育者養成の段階では、実践の中で子どもや自分自身の成長を実感し、保育のおもしろさを見出すことのできる保育者としての土台を、日々の関わりを通して、学生一人ひとりに育てることが重要であると再確認しました。

お忙しい中ご参加くださった卒業生の皆様、在學生の皆様、そして、教職員の皆様ありがとうございました。



## 第22回 明星大学 教育・保育セミナー報告書

2025年2月28日 発行

発行者

明星大学教育学部教育学科

代表者 村岡 慈歩

東京都日野市程久保2-1-1

電話 042-591-5111(代)